

#### 4 - 9 <sup>あかうさぎ</sup> 赤兎山（福井 - 石川県境）に発生した群発地震活動

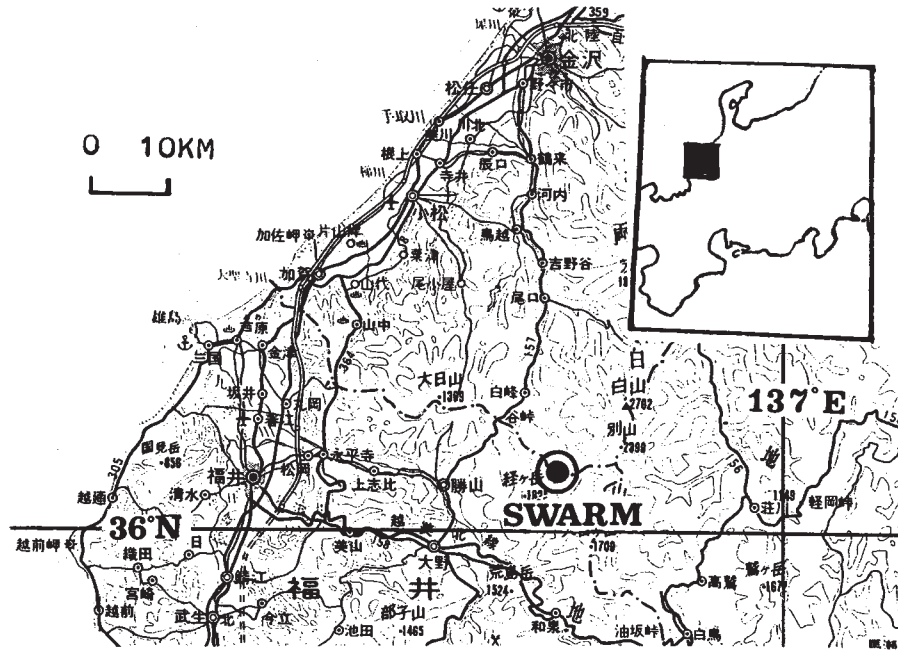
##### Earthquake Swarms Generated at the Mt. Akausagi (Fukui-Ishikawa Border)

京都大学防災研究所北陸微小地震観測所

Hokuriku Microearthquake Observatory,  
Disaster Prevention Research Institute,  
Kyoto University

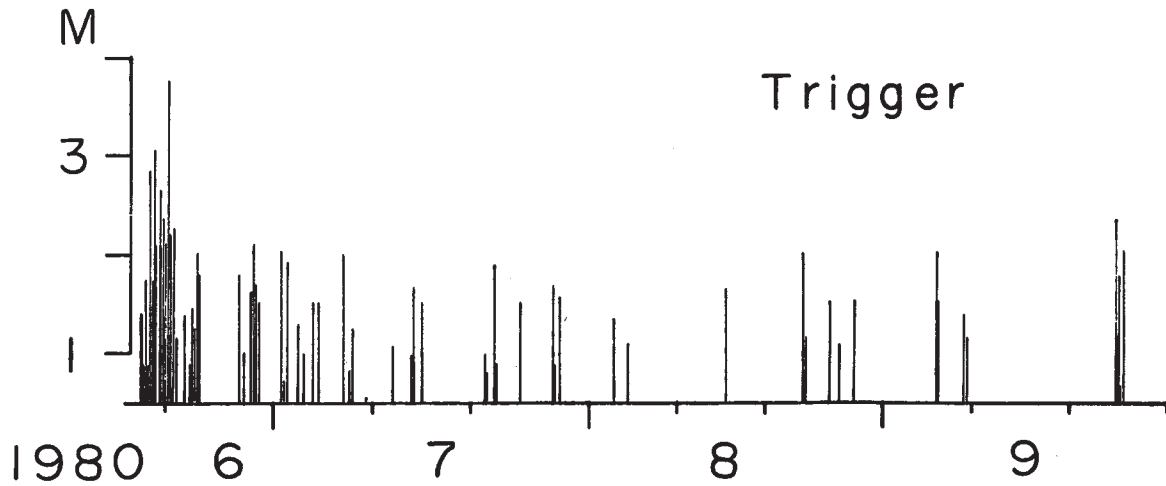
1980年6月17日、突如として始まった群発活動は、同20日にM3.7（JMAによれば3.4）の最大地震へと続き、その後、2～3ヵ月活動が継続した。この活動の主な特徴を列挙すれば次の通りである。

- 1) 1976年5月、北陸微小地震観測所テレメーター観測開始以来、数の上で最大の群発活動である。（トリガー回数50回以上、 $M \geq 0.0$  数100個）。
- 2) 活動域は、北美濃地震（1961）の余震域に極く近く、その北西数km程度に位置する。地形図では、両白山地内にあり、その中の最高峰、白山（2702m）の南西約10km、赤兎山を震央とする。
- 3) 最大地震の近傍、半径5kmの円内には、この活動より前15ヵ月間は、当観測所で震源決定されるような地震は皆無であった。
- 4) 最大地震の約40時間前に、M3.5（JMAでは3.1）の地震があり、最大前震といえるかも知れない。また、最大地震の後は、 $M \geq 2.3$ の地震が全く発生していない。b値は、最大地震までの25個の地震からは0.6程度、その後の地震も含めて55個で求めた値は1.0程度と差が見られる。
- 5) 震源は、立ち上りの良好な4観測点のP波を用いて決定すると、半径1kmの円内にほぼ集中し、深さ方向にはもう少しバラつく。ただし、M3.7と3.5の2つの地震が特に深く求まっており、他のものは、発生時期が最大地震の前後にまたがっているにも拘らず、深さ1.5～3.5kmに求まる。
- 6) 活動は、12月1日現在、ほぼ終息しているが、6月の地震を機に、その後白山連峰に、 $M \geq 2$ の地震が例年になく多発している。



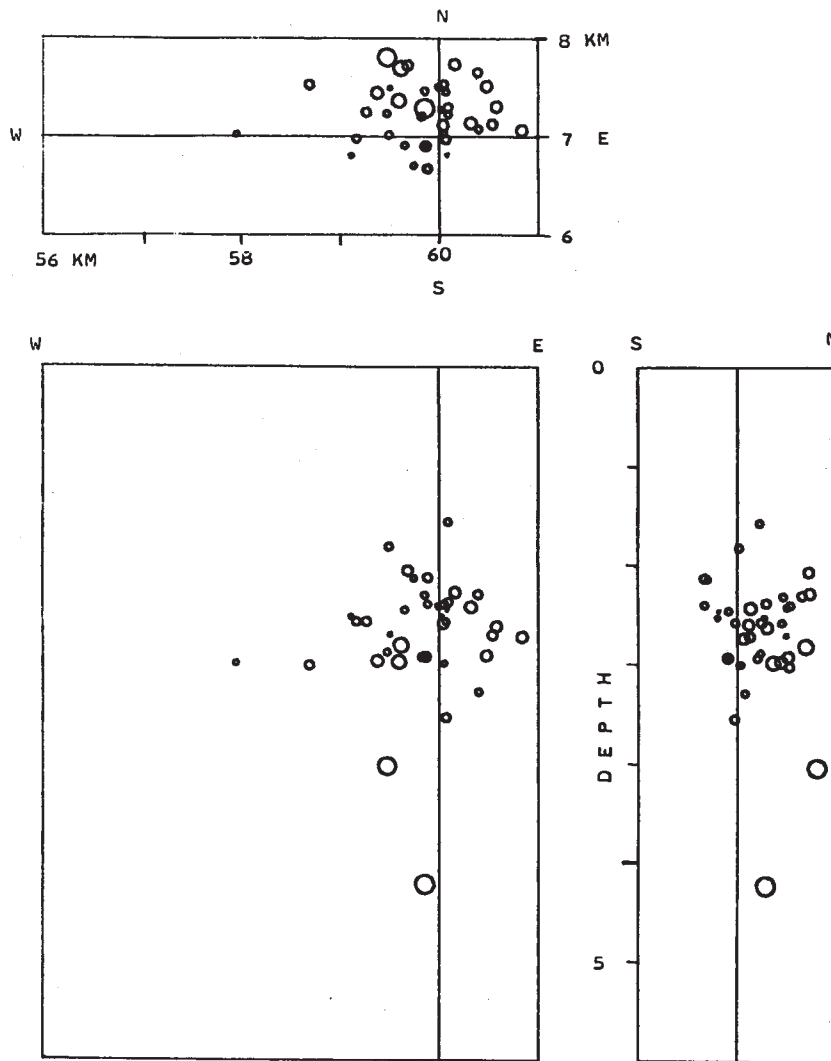
第1図 地形図

Fig. 1 Topographical map.



第2図 地震の時系列。北陸微小地震観測所でトリガーされたもののみ。これ以後12月1日までは極く少数である。

Fig. 2 Time series of earthquake occurrences, observed by triggering at the Hokuriku microearthquake observatory network. Few earthquakes have been observed thereafter up to Dec. 1.



第 3 図 震源分布。図中の数字は北陸原点 (36° N, 136° E) からの距離 ( km ) である。

Fig. 3 Epicenter distribution. Numerals in the figure denote distances in km from the "Hokuriku-origin" (36°N, 136°E).